

ケンモン(※1)は、奄美群島の人々が昔から語り継いできた妖怪・精霊で、今も暮らしのなかに息づいています。

- ・ケンモンが棲むガジュマルなどの木を切ったり売ったりすると祟られる
- ・山で人の名前を直接呼ぶと、ケンモンが真似するので、呼んではいけない
- ・夜の漁に行くときにケンモンがついてくると大漁になる

など、伝承が多く残されています。

九州以北の「カッパ」や沖縄の「キジムナー」と共通する点があり、今も奄美群島の人々にとって身近な存在です。奄美大島の龍郷町と宇検村の小中学校の児童・生徒が2009年に行った地域のお年寄り約100人への聞き取り調査では、「ケンモンの存在を信じている」と答えた人は84%、「実際にケンモンに会ったことがある」と答えた人は6人でした。

ケンモンは人の生活空間と自然との境界線に存在すると言われ、人が自然との共生のおきてを守っている時には、安寧と幸福をもたらす神として、そのおきてを破るときは、荒ぶるムン(悪霊)として人を震えさせます。ケンモンは、自然を大切にすること、危険な場所に近寄らせないことなど、人間に自然との関わり方を教え、災いから守ってくれているとも言えます。

ケンモンが出現する空間や伝承は、自然と人との関わりや奄美群島の精神世界を今に伝える大切な地域の財産です。

ケンモンが棲み続けられる自然環境を守るとともに、ケンモンに象徴される自然への畏怖を忘れないことも、豊かで神秘的な奄美群島の文化を後世に引き継いでいくために大切なことです。

※1 地域によって発音や呼び名が異なります。ここでは便宜上「ケンモン」の名称を使用しています。

各島のケンモン

奄美群島の中でも、島や地域によってその呼び名や伝えられている特徴は様々です。奄美大島や徳之島のケンモンは、その特徴に大和(倭・ヤマト)のカッパの影響が見られると言われています。喜界島においてはケンモンについて奄美大島ほど多くの伝承は聞かれず、元々いなかったのか既に絶滅したのかは不明です。奄美大島、徳之島、喜界島にはカッパに似た「ガワラ」と呼ばれる妖怪の伝承もありますが、奄美大島住用町の古老によればガワラはケンモンではないという証言が多く、薩摩藩統治による妖怪認識の影響によるものではないかと考えられています。沖永良部島のケンモンは「ヒュームン」と呼ばれており、山に生息していて、海で見かけた話はあまり聞かないようです。与論島のケンモンは「ハタパギマンジャイ」(片足で跳ねること)、「イシャト」(海でみるケンモン)と言われており、ケンモンとは少し違うといえます。

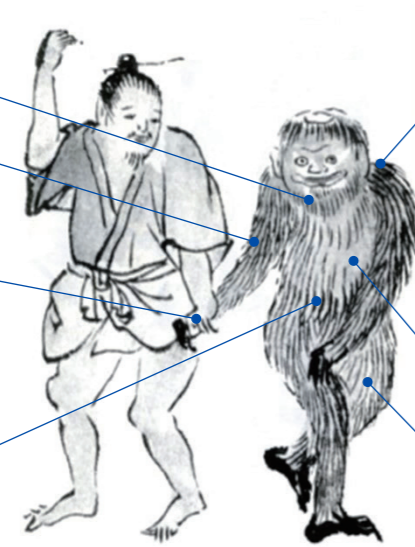
ケンモンの特徴

魚の目玉が好き。タコが嫌い。

山を渡るときや漁をするときにケンモン火と呼ばれる火を灯す。

気に入った人の夢に出てきて「〇〇に居る」と言い、次の日そこに行くときケンモンは必ず居る。

相撲好き。弱いのに人間に出会うと必ず相撲を挑むが、簡単に投げ飛ばされる。とても負けず嫌いで、何回も挑んでくる。



ガジュマルやアコウ、ハマイヌビワなどの特に大木に棲む。



人間の子どもの位の大きさで、全身は毛に覆われている。

座ると足が長い。

名越佐源太『南島雑話』(奄美市立奄美博物館所蔵)

[出典] ・ケンモン分布 「平成25年度 地域の環境文化に依拠した世界自然遺産のあり方に関する調査検討業務報告書」(環境省)を元に加工
 ・怪異・妖怪伝承データベース(大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター) (https://www.nichibun.ac.jp/YoukaiDB3/search.html)
 ・「伝承と自然保護教育・自然体験学習」環境教育, 2013, 23巻, 1号, p. 1_35-42(小栗 有子) (https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsoee/23/1/23_1_35/_pdf)
 ・背景図 地理院タイル(標準地図)

カッパの特徴

- ・川や山に棲む。
 - ・子どもくらいの大きさで、全身に鱗があり、背中に甲羅、頭には皿があって口はくちばしのようにになっている。あるいは、毛むくじゃらでサルに似ている。
 - ・相撲好き。
 - ・キュウリが好物で、金属が嫌い。
 - ・水を飲みに来た馬や川遊びする子どもを川に引き込んで尻子玉を抜く。
- ※カッパは地域によって様々な特徴・呼び名があります。

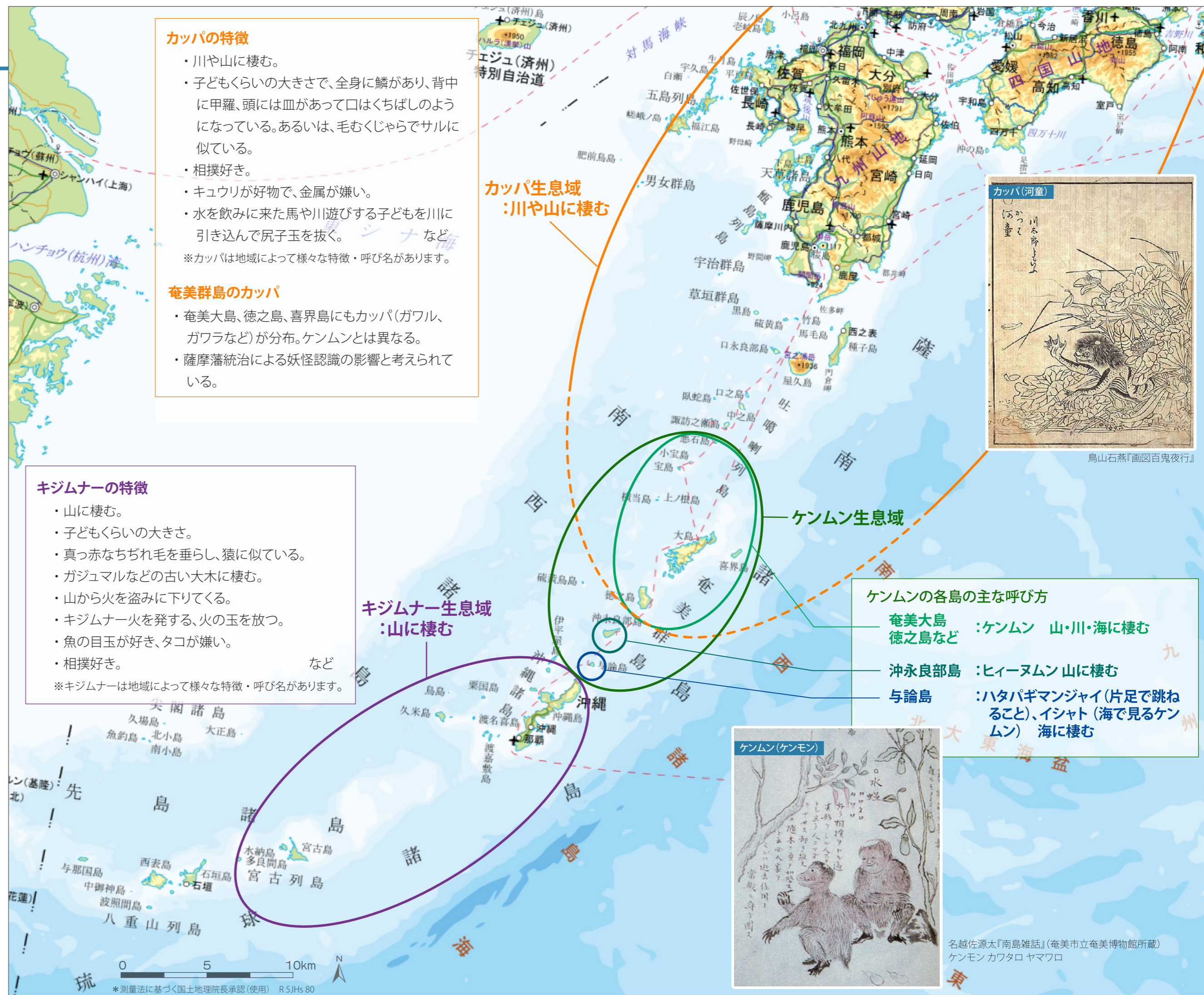
奄美群島のカッパ

- ・奄美大島、徳之島、喜界島にもカッパ(ガワル、ガワラなど)が分布。ケンモンとは異なる。
- ・薩摩藩統治による妖怪認識の影響と考えられている。

キジムナーの特徴

- ・山に棲む。
 - ・子どもくらいの大きさ。
 - ・真っ赤なちぢれ毛を垂らし、猿に似ている。
 - ・ガジュマルなどの古い大木に棲む。
 - ・山から火を盗みに下りてくる。
 - ・キジムナー火を発する、火の玉を放つ。
 - ・魚の目玉が好き、タコが嫌い。
 - ・相撲好き。
- など
- ※キジムナーは地域によって様々な特徴・呼び名があります。

キジムナー生息域 :山に棲む

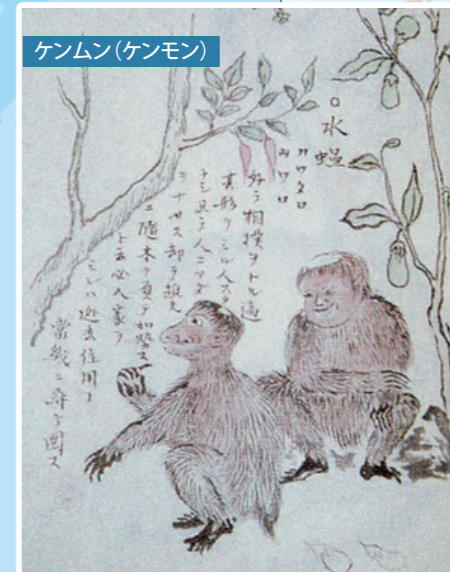


カッパ生息域 :川や山に棲む

ケンモン生息域

ケンモンの各島の主な呼び方

- 奄美大島 徳之島など :ケンモン 山・川・海に棲む
- 沖永良部島 :ヒュームン 山に棲む
- 与論島 :ハタパギマンジャイ(片足で跳ねること)、イシャト(海で見るケンモン) 海に棲む



名越佐源太『南島雑話』(奄美市立奄美博物館所蔵) ケンモン カワタロ ヤマワロ



鳥山石燕『画図百鬼夜行』